

2024年第6週(2月5日~2月11日)

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

感染症発生動向調査

名古屋市感染症発生動向調査情報

名古屋市感染症情報センター(名古屋市衛生研究所疫学情報部)

2024年(令和6年)2月14日作成

<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0-0.html>

◆本市の状況

〔定点把握感染症の発生動向〕

- インフルエンザが増加し、定点当たり患者報告数が21.84人となり、前週比1.1倍となりました。

〔1類~5類全数把握感染症の届出〕

| 診断週 | 感染症の分類 | 疾患 | 発生数 | 発生の概要 |
|--------------|--------|--------------------|-----|--|
| 2024年 第6週 | 2類 | 結核 | 10 | 男性、79歳、肺結核 男性、21歳、肺結核 男性、87歳、肺結核 男性、73歳、肺結核 男性、55歳、肺結核 女性、49歳、肺結核 男性、52歳、肺結核 女性、99歳、肺結核及び結核性胸膜炎 男性、84歳、肺結核及び結核性胸膜炎 女性、26歳、無症状病原体保有者 |
| 2024年 第6週 | 4類 | E型肝炎 | 1 | 男性、55歳、感染原因：不明、感染地域：国内 |
| 2024年 第6週 | 4類 | レジオネラ症 | 1 | 女性、86歳、ポンティアック熱型、感染地域：国内 |
| 2024年 第6週 | 5類 | カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 | 1 | 女性、53歳、菌検出検体：開放膿、菌種： <i>Escherichia coli</i> 、感染原因：以前からの保菌(保菌部位：臀部) |

NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

| | | | | |
|--------------|----|----------------|---|--|
| 2024年 第6週 | 5類 | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | 1 | 女性、87歳 |
| 2024年 第6週 | 5類 | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 1 | 女性、79歳、菌検出検体：血液 |
| 2024年 第6週 | 5類 | 梅毒 | 9 | 女性、49歳、早期顕症梅毒1期 男性、58歳、早期顕症梅毒1期 女性、25歳、早期顕症梅毒2期 女性、39歳、早期顕症梅毒2期 女性、28歳、早期顕症梅毒2期 男性、53歳、早期顕症梅毒2期 女性、22歳、無症状病原体保有者 女性、23歳、無症状病原体保有者 男性、23歳、無症状病原体保有者 |

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった1類から5類全数報告感染症。

| 診断週 | 感染症の分類 | 疾患 | 発生数 | 発生の概要 |
|--------------|--------|----------------|-----|------------------|
| 2024年 第5週 | 2類 | 結核 | 1 | 女性、70歳、肺結核 |
| 2024年 第5週 | 5類 | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | 1 | 男性、71歳 |
| 2024年 第5週 | 5類 | 梅毒 | 1 | 女性、21歳、無症状病原体保有者 |

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

(報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります)

〔2024年1類～5類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

| 感染症の分類 | 疾患 | 累計 |
|--------|--|--------|
| 1類感染症 | エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他 | 0 |
| 2類感染症 | 急性灰白髄炎 | 0 |
| 2類感染症 | 結核（潜在性結核感染症を含む） | 39 (9) |
| 2類感染症 | ジフテリア | 0 |
| 2類感染症 | 重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る） | 0 |
| 2類感染症 | 中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る） | 0 |
| 2類感染症 | 鳥インフルエンザ（H5N1） | 0 |
| 2類感染症 | 鳥インフルエンザ（H7N9） | 0 |
| 3類感染症 | コレラ | 0 |
| 3類感染症 | 細菌性赤痢 | 0 |
| 3類感染症 | 腸管出血性大腸菌感染症 | 0 |
| 3類感染症 | 腸チフス | 0 |
| 3類感染症 | パラチフス | 0 |
| 4類感染症 | E型肝炎 | 1 |
| 4類感染症 | レジオネラ症 | 5 |
| 5類感染症 | アメーバ赤痢 | 1 |
| 5類感染症 | カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 | 7 |
| 5類感染症 | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | 11 |
| 5類感染症 | 後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） | 4 (4) |
| 5類感染症 | 侵襲性インフルエンザ菌感染症 | 3 |
| 5類感染症 | 侵襲性肺炎球菌感染症 | 15 |
| 5類感染症 | 水痘（入院例に限る） | 2 |
| 5類感染症 | 梅毒 | 37(17) |
| 5類感染症 | バンコマイシン耐性腸球菌感染症 | 1 |
| 5類感染症 | 百日咳 | 1 |

累計は2024年第1週からの診断週による累計、()内は無症状病原体保有者累計数を再掲、[]内は疑似症累計数を再掲、【 】内は感染症死亡者の死体累計数を再掲、〔 〕内は感染症死亡疑い者の死体累計数を再掲、〈 〉内は後天性免疫不全症候群の「その他」累計数を再掲。対象疾患が多いため、4類及び5類感染症は報告のあった疾患のみを掲載。
 （報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔愛知県麻疹・風しん患者調査事業について〕

平成 20 年 1 月 1 日から、麻疹・風しんは全数把握対象疾患となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻疹・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。調査結果については下記のリンク先（愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>）をご覧ください。

〔定点医療機関からの情報〕

定点医療機関からは検査結果や患者発生状況等がコメント情報として報告されています。定点医療機関から報告されたコメント情報は下記のとおりです。なお、コメント情報のなかった定点医療機関については掲載しておりません。

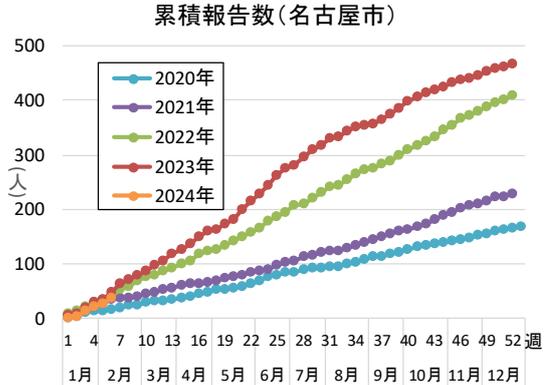
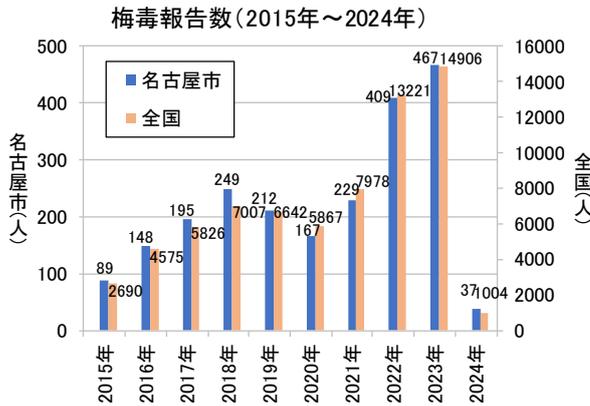
| | |
|--|-------------|
| インフルエンザ A 型@6～11 か月：男 1 名、6 歳男：1 名、6 歳女：1 名、9 歳男：1 名、9 歳女：1 名、10～14 歳女：1 名@あとはすべてインフルエンザ B 型 | 定点医療機関（千種区） |
| B 型×11 人 | 定点医療機関（西区） |
| インフルエンザ A 型 3 人 B 型 23 人 | 定点医療機関（西区） |
| 感染性胃腸炎はすべてノロウイルス感染症 | 定点医療機関（西区） |
| インフルエンザ A 型 2 名 B 型 13 名 | 定点医療機関（中村区） |
| インフルエンザ A 型 10 人 B 型 13 人 | 定点医療機関（中村区） |
| インフル B 型 1 名 | 定点医療機関（中区） |
| ヒトメタニューモウィルス感染症がまた増えてきています。2 月 8 日 2 人、10 日 2 人います。 | 定点医療機関（中区） |
| インフルエンザ A 型：1 名@インフルエンザ B 型：8 名@インフルエンザ型不明：1 名 | 定点医療機関（昭和区） |
| インフルエンザ A 1 人、B 3 人 | 定点医療機関（瑞穂区） |

NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

| | |
|--|-------------|
| インフルエンザ 合計 21 名@男性 A 型 10 名 B 型 1 名@女性 A 型 7 名 B 型 3 名 | 定点医療機関（南区） |
| インフルエンザ A 型 12 名 インフルエンザ B 型 13 名 | 定点医療機関（守山区） |
| インフルエンザ A 型 3 名、B 型 20 名 | 定点医療機関（緑区） |
| インフルエンザ A 3 名・インフルエンザ B 18 名・コロナウイルス 5 名 | 定点医療機関（天白区） |

〔名古屋市の梅毒報告数〕

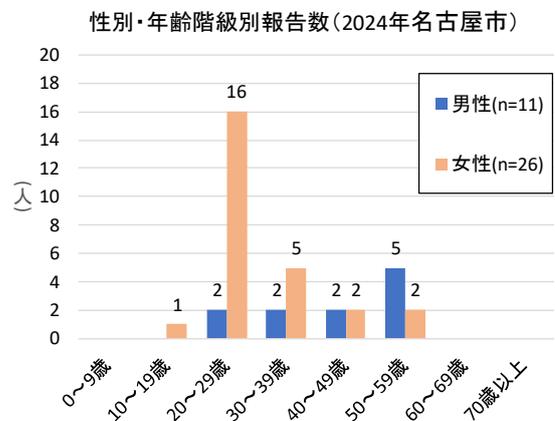
- 本市における梅毒の2024年の患者報告数は現在37人です。近年、梅毒の患者報告数が全国的に増加しており、本市における2023年（令和5年）の報告数は、過去最多の467人となっています。
- 梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体による感染症で、感染経路は感染部位と粘膜や皮膚との直接接触（性的接触）です。
- 梅毒の症状は、時間の経過とともに局所から全身に広がっていきます。症状が一時的に消失しても治療を行わないと病気は進行します。また、感染しても症状が現れない場合や治っても再度感染することがあります。
- 妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児も感染し、死産や早産、先天梅毒を起こす可能性があります。
- 梅毒の治療には抗生物質が用いられます。



梅毒報告数の推移

| | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|--------|
| 名古屋市 | 89 | 148 | 195 | 249 | 212 | 167 | 229 | 409 | 467※3 | 37※1 |
| 全国 | 2690 | 4575 | 5826 | 7007 | 6642 | 5867 | 7978 | 13221 | 14906※3 | 1004※2 |

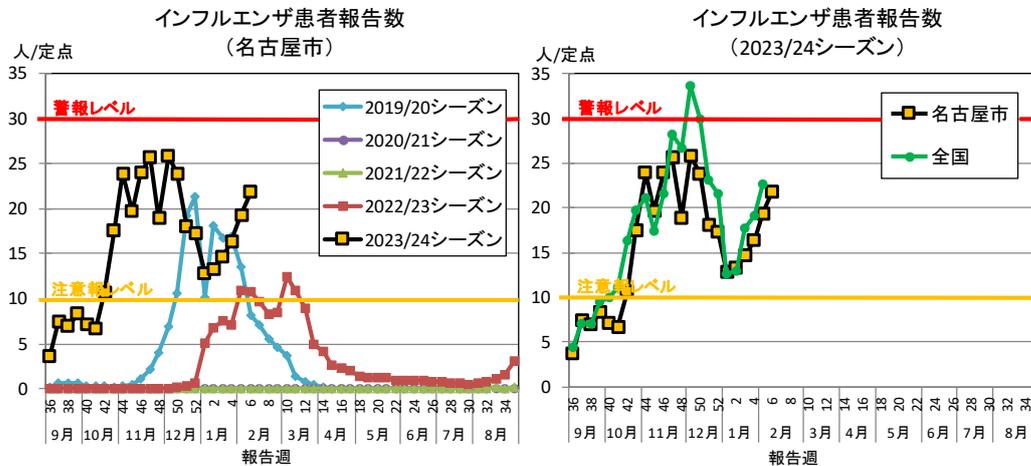
※1 第6週(2月11日)まで ※2 第5週(2月4日)まで ※3 報告数は速報値



〔トピックス①：インフルエンザ（2023/24シーズン）〕

- インフルエンザが流行しており、本市における2024年第6週（2月5日～2月11日）の市内70定点からのインフルエンザ患者報告数は1529人、定点当たり患者報告数は21.84人で、前週比1.13倍に増加しました。インフルエンザB型の患者報告数が増加しています。
- 本市の定点当たり患者報告数（16区平均）は、国立感染症研究所が定める注意報の指標である「10」を上回っています。
- 愛知県では令和5年11月9日にインフルエンザ警報が発令されています。
- インフルエンザウイルスのうちAH3亜型、AH1pdm09亜型、B型（ビクトリア系統）が検出されています。
- インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症です。主な感染経路は、感染した人の咳やくしゃみによる飛沫感染と病原体に汚染された物等を介した接触感染があります。
- 感染後、1日から3日程度の潜伏期間を経て、発熱（38℃以上）、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等が出現し、咳、鼻水等の上気道炎症状が現れます。1週間前後の経過で軽快するのが典型的なインフルエンザの症状であり、いわゆる「かぜ」に比べて全身症状が強いのが特徴です。高齢者や乳幼児などは重症化することがあるので、特に注意が必要です。

〔名古屋市のインフルエンザ患者報告数：2024年2月14日作成〕



定点当たり患者報告数の推移

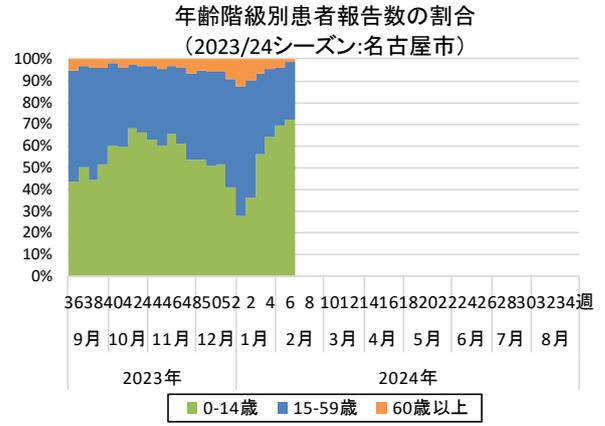
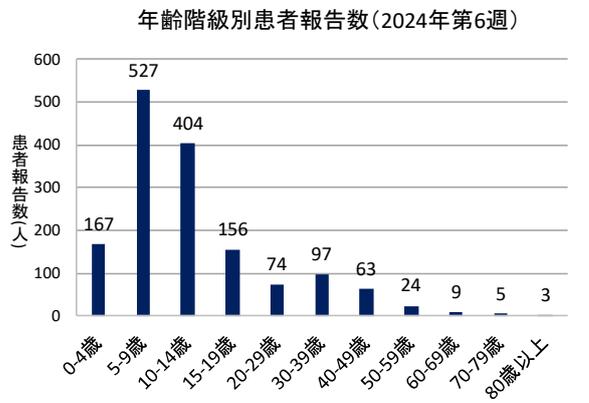
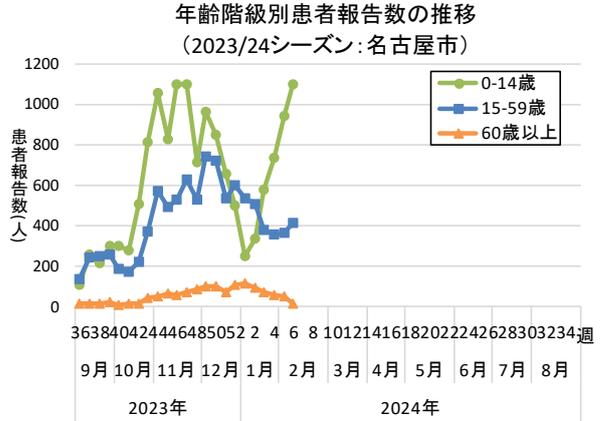
| | 第51週 (12/18～ 12/24) | 第52週 (12/25～ 12/31) | 第1週 (1/1～ 1/7) | 第2週 (1/8～ 1/14) | 第3週 (1/15～ 1/21) | 第4週 (1/22～ 1/28) | 第5週 (1/29～ 2/4) | 第6週 (2/5～ 2/11) |
|-------------------|---------------------------|---------------------------|----------------------|-----------------------|------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 名古屋市 (2023/24) | 18.10 [1267] | 17.29 [1210] | 12.90 [903] | 13.34 [934] | 14.66 [1026] | 16.41 [1149] | 19.36 [1355] | 21.84 [1529] |
| 愛知県 | 25.48 | 22.47 | 16.94 | 17.58 | 22.71 | 24.68 | 27.53 | - |
| 全国 | 23.13 | 21.65 | 12.66 | 12.99 | 17.72 | 19.20 | 22.62 | - |
| 名古屋市 (昨シーズン) | 0.33 | 0.71 | 5.06 | 6.76 | 7.61 | 7.10 | 10.86 | 10.76 |

※「1」を超えると流行入り、「10」を超えると注意報、「30」を超えると警報の基準

※報告数は各週公表時における速報値

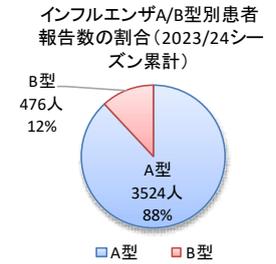
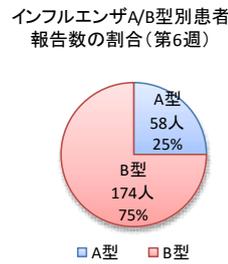
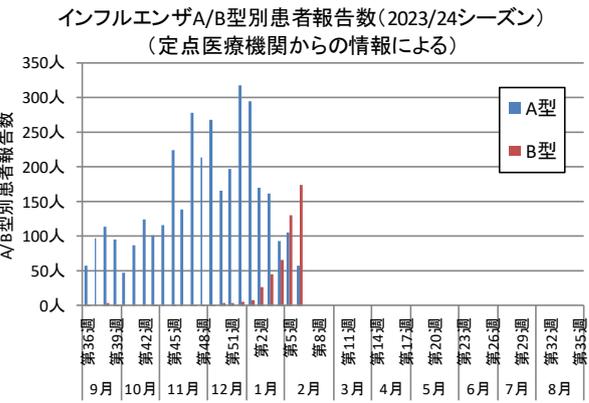
※[]内は名古屋市内70定点からの患者報告数

インフルエンザの年齢階級別患者報告数



インフルエンザA/B型別流行状況

インフルエンザウイルス迅速診断キットによるインフルエンザA/B型別の検査結果が定点医療機関から報告されています。本市におけるインフルエンザA/B型別の患者情報を集計したところ、2024年1月以降インフルエンザB型の患者報告数が増加しています。2023/24シーズンはインフルエンザウイルスのうちAH3亜型、AH1pdm09亜型、B型(ビクトリア系統)が検出されています。



〔インフルエンザ関連リンク〕

- インフルエンザ情報（名古屋市）

<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-9-0-0-0-0-0.html>

- インフルエンザ（総合ページ）（厚生労働省）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuleenza/index.html

- インフルエンザウイルス分離・検出状況（国立感染症研究所）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>



◆入院サーベイランス

基幹定点医療機関（市内3医療機関：北区、昭和区、中川区）より、インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による入院患者の発生状況が毎週報告されています。

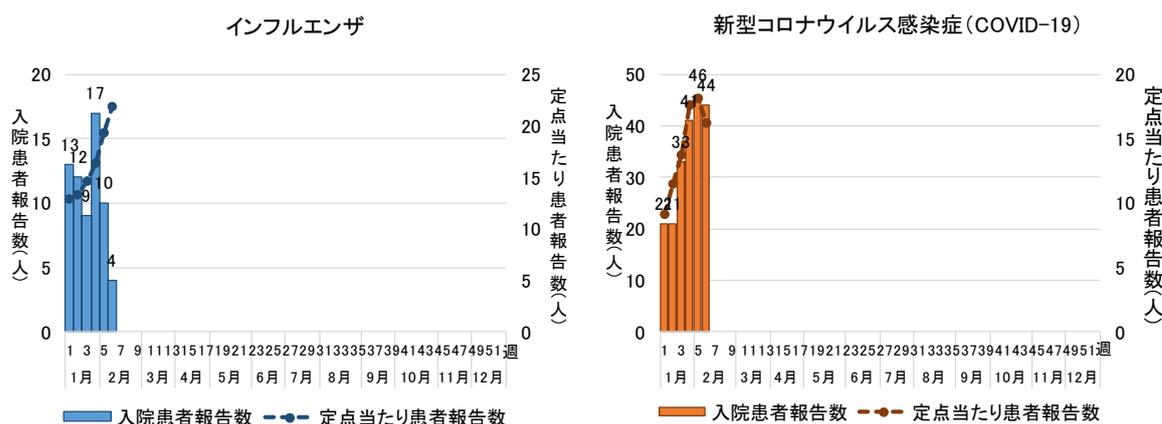
年齢階級別入院患者報告数（2024年第6週（2月5日～2月11日））

| | 0歳 | 1～4歳 | 5～9歳 | 10～14歳 | 15～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～69歳 | 70～79歳 | 80歳以上 | 計 |
|------------------------|----|------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|----|
| インフルエンザ | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 新型コロナウイルス感染症（COVID-19） | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 | 5 | 4 | 11 | 17 | 44 |

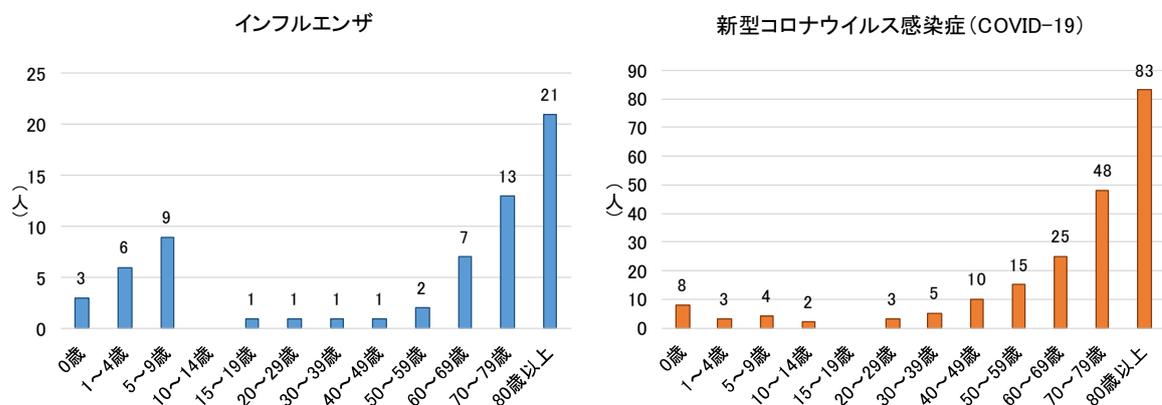
年齢階級別入院患者報告数（2024年累積）

| | 0歳 | 1～4歳 | 5～9歳 | 10～14歳 | 15～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～69歳 | 70～79歳 | 80歳以上 | 計 |
|------------------------|----|------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-----|
| インフルエンザ | 3 | 6 | 9 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | 7 | 13 | 21 | 65 |
| 新型コロナウイルス感染症（COVID-19） | 8 | 3 | 4 | 2 | 0 | 3 | 5 | 10 | 15 | 25 | 48 | 83 | 206 |

入院患者報告数および定点あたり患者報告数の推移（2024年）

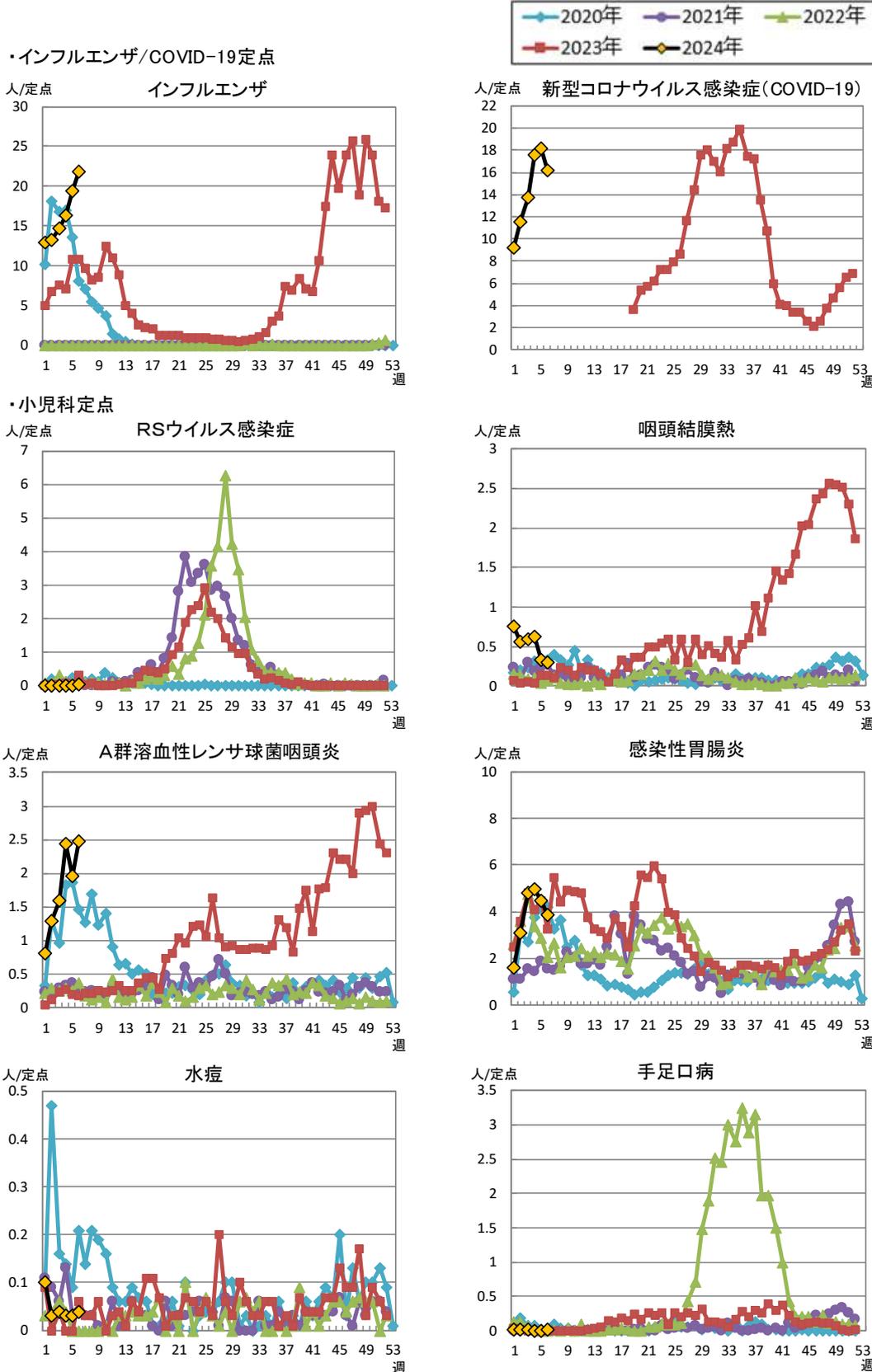


年齢階級別入院患者報告数（2024年累積）



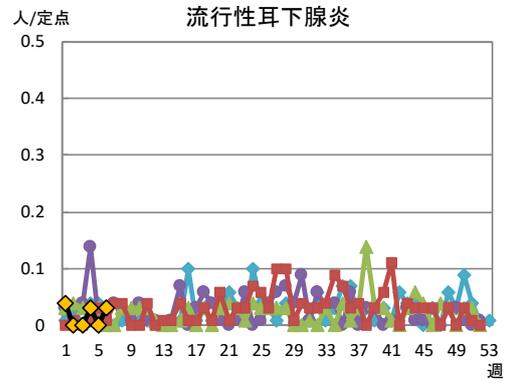
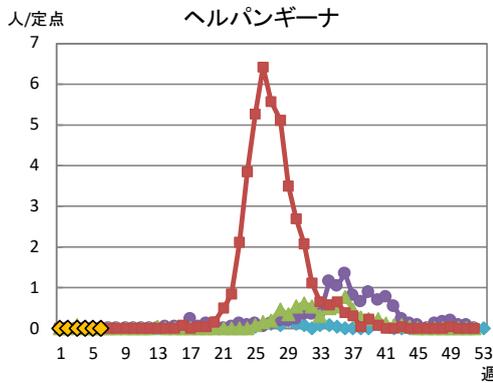
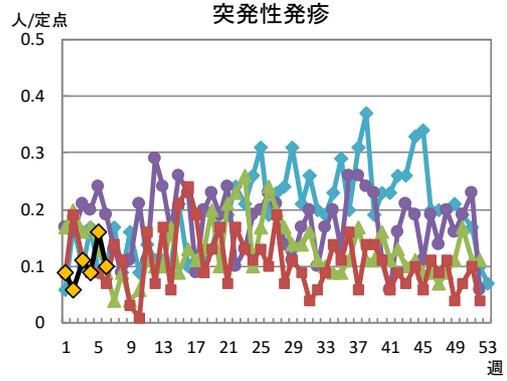
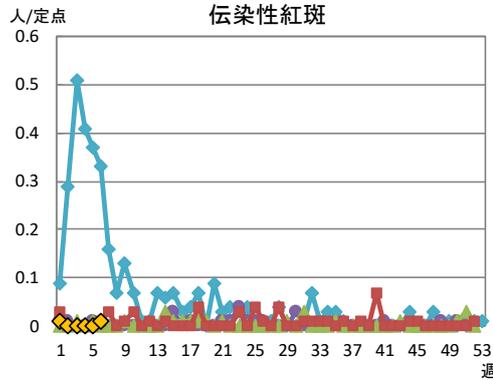
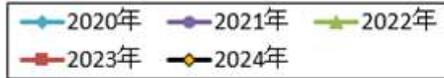
NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

◆インフルエンザ/COVID-19定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(1) 2024年第6週まで

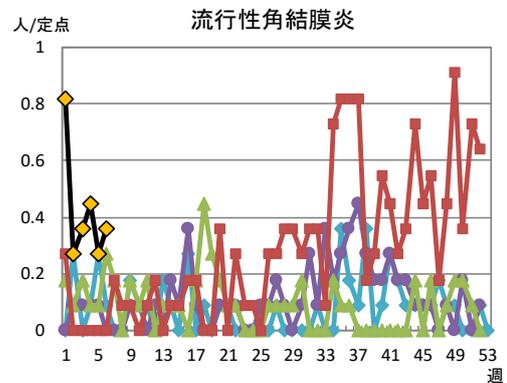
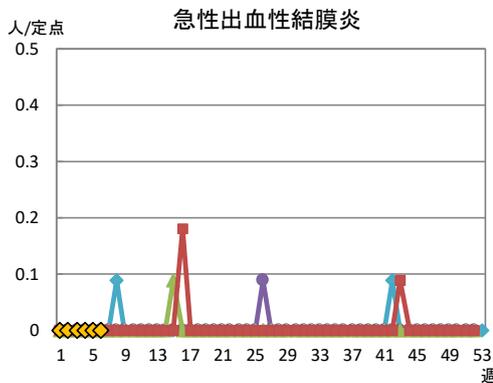


NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

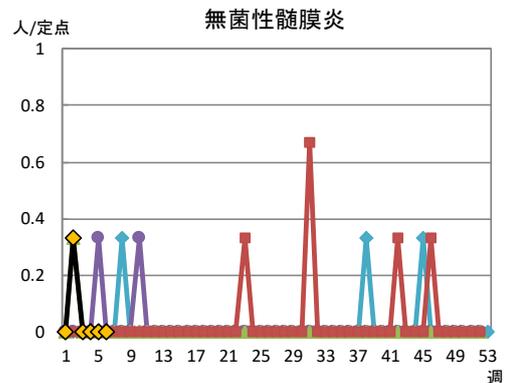
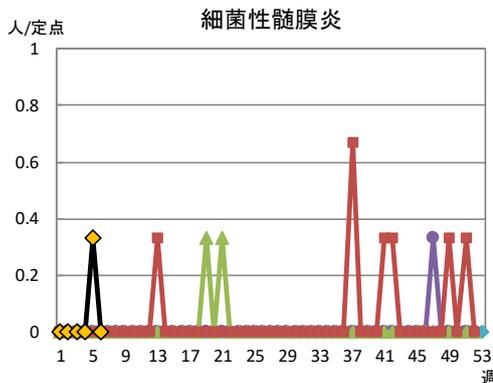
◆インフルエンザ/COVID-19定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(2) 2024年第6週まで



・眼科定点



・基幹定点



◆インフルエンザ/COVID-19定点・小児科定点・眼科定点・基幹定点医療機関からの
 定点あたり患者報告数の推移グラフ(3) 2024年第6週まで

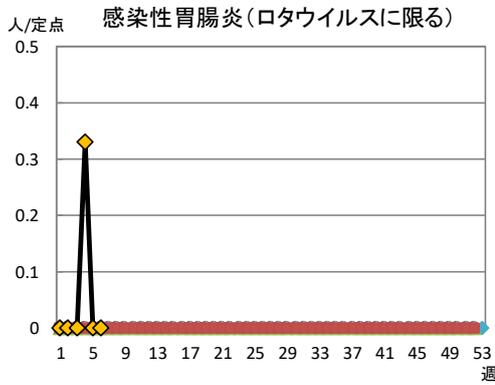
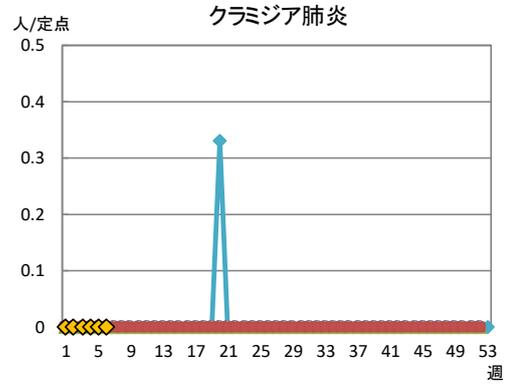
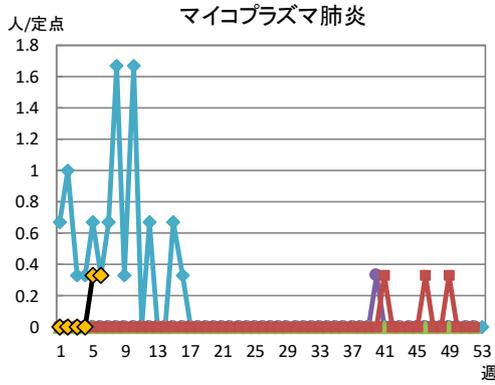
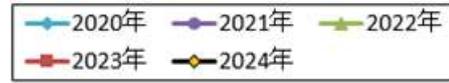


図1. STD各感染症が総報告数に占める割合(2024年1月)

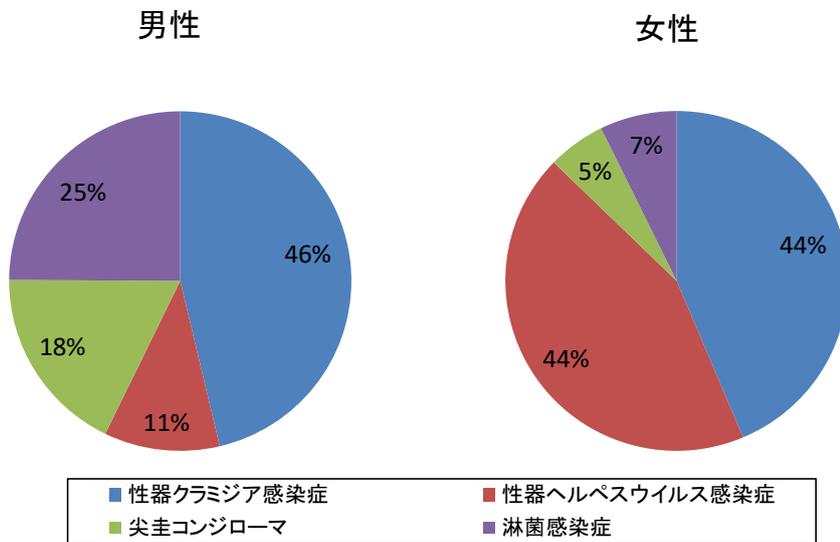


図2. 各STDの性別・年齢階級別の定点あたり報告数(2024年1月)

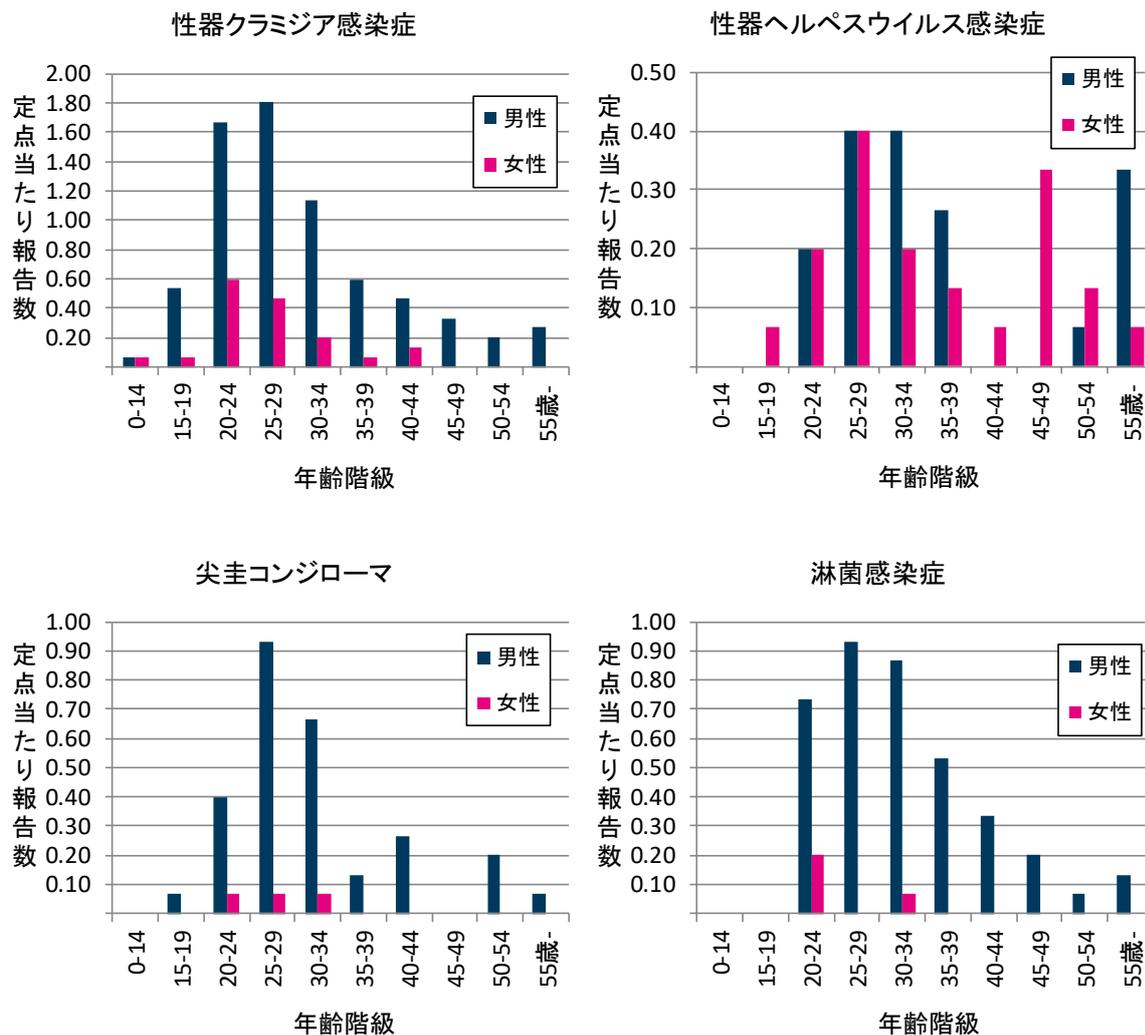


図3. 各STDの定点あたり報告数の推移

